

日本基督教団  
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦  
協力牧師 松下 恭規

# 教 会 報

197号 2020年3月29日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

## 巻頭言

### 「神に喜ばれる歩みを続けてください」

——テサロニケの信徒への手紙—第4章1～2節——

牧師 渡邊 義彦



さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者としてわたしたちはさらに願い、また勧めます。あなたがたは神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。そして、現にそのように歩んでいます、どうか、その歩みを今後も更に続けてください。

(新共同訳聖書)

使徒パウロは、キリスト者の生き方、与えられた人生の歩み方を勧めるのに、いつもキリストの救いを語る所からはじめます。ローマ教会に宛てた手紙、コリント教会に宛てた手紙、これら大きな手紙ではそれぞれの特徴をもってキリストの救いとキリスト者の生き方が語られています。ローマ教会に宛てた手紙には、書き始めから最後に至るまで救済と倫理が構造的に、コリント教会に宛てた手紙では、教会からの質問状に答える毎に重層的に、主イエス・キリストがわたしたちの為にしてくださった救いの御業と救われた者たちの生き方が確認されています。

ところがテサロニケ教会に宛てた手紙には、キリストの救済の御業とわたしたち人間の生き方や倫理の課題については、ロマ書やコリント書のように際立った特徴はないように見受けられます。現在教会が直面している課題への具体的対応、テモテをテサロニケ教会に派遣することであるとか、パウロたちのテサロニケ伝道を思い起こして今を耐える力を再び奮い起こすことであるとか、テサロニケ教会の懸命な伝道

への取組みといったことが語られてきました。ところが、ほんとうに小さな言葉ですが、3章13節にこうあります。

わたしたちの主イエスが、御自身に属するすべての聖なる者たちと共に来られるとき、あなたがたの心を強め、わたしたちの父である神の御前で、聖なる、非のうちどころのない者としてくださるように、アーメン。

そして、主イエスに結ばれた者として、神に喜ばれる歩み方、生き方を語る、小さなセクションを挟んで、4章13節から、同様に、キリストが再び来てくださる日のことをたくさんの言葉を費やし語ってゆきます。こう見てみると、ロマ書、コリント書といったパウロのヨーロッパ伝道では比較的後期に書かれた手紙に比べてみると、もっとも初期に書かれたと言われているテサロニケの手紙は、キリストが再び来てくださる再臨が大きな関心事であったことがわかるように思います。キリストが再び来てくださるのがまさに間近であるという期待と緊張感が、パウロたち、キリスト者たちの今の生き方を決定していたように見えるのです。

そうであるとする、現代の教会が置かれている状況はどのように考え得るでしょうか。キリストが再び来てくださると約束くださって二千年のときが経ちました。キリストが再臨なさる終末は延長に延長を重ねているのでしょうか。テサロニケの教会に宛てた手紙とロマ書やコリント書に時間差があると申しましたが、この間

にもキリストが再び来てくださることへの真剣な反省が教会にあったのだと考えられます。つまり、キリストが再び来てくださるにはもう少し年月が必要なかもしれない、と教会が気付いてゆくのです。キリストが今にも帰って来てくださるといふ熱狂は、キリストがお出でになるにはもう少しの年月が必要なのだとの反省を経て落ち着いてゆくのです。現代はそれからさらに二千年の年月を経ています。この年月の間に、教会はキリストが再臨なさることへの期待や緊張感を失って弛緩してしまっていないでしょうか。わたしたちの教会、わたしたちの信仰はどうでしょうか。キリストが再び来てくださるのを待ち望むとの信仰を新たにしているか改めて反省しなくてはならないのではないのでしょうか。十字架の救いへの感謝と共に、キリストが再び来てくださる期待から今のわたしたちの生き方を考え生きてはならないはずです。

キリストが再びお出でくださるまでの間に教会に託されている伝道を考えます。福音を世界に伝道がしてゆくことがいかに困難であるかを思います。現代の日本だけでなく、いついかなる時代も、どのような国や地域でも、伝道が容易であったときも、場所もありませんでした。いつも福音が伝えられ、神の救いの御業が行われようとするところには困難と摩擦が起きてきました。伝道は、福音を拒み、かたくなに拒否する力との戦いであつたし、今もそうであり続けます。これからもそうであり続けるでしょう。

主イエスが天の国のたとえを語られ、御国の豊かさが完全なものとしてわたしたちのあいだに明らかになるまで困難、艱難を経てゆかねばならないことを語れました。これを聞いた人々が頑なに主を受け入れないことをわたしたちは福音書に聞きます。救いを受け入れない人々の頑なさを、主がどれほど嘆かれたかを聞きます。救いを拒む人間の頑なさを砕かれるため、主が十字架を負われなければならなかったのです。神の国に至るため主の血による贖罪がどうしても必要だったのです。罪を赦されて、はじめて神の国に与るのです。罪人は、悔い改めて罪を赦されることで神の御支配を全面的に受け入れ

て、すべてを神の御支配に委ねてしまうのです。罪赦された罪人たちのあいだに神の国、神の御支配が明らかになってゆきます。

御言葉の種が持つ命は決してしばむことなく、枯れ果てることなく、伝道の困難の中で救われる者たちを起すことへと実を結び続けてきました。御言葉は、キリストの救いを受け入れる者たちを起こしてきました。救われた聖徒のつながりは伝道が進められてきた道筋を明らかにしています。召された聖徒たちに洗礼のため手を按いた牧師たちがおり、この牧師たちにもまた手を按いた牧師たちがいます。この霊的なつながり、系譜は、系図として一時も途切れていません。

罪を赦されるためにキリストが十字架を負われたことをこそ宣べ伝えなければなりません。キリストの十字架ゆえに神とわたしたちとの関係が回復されたことをこそ宣べ伝えなければなりません。福音を受け入れ救われることをこそ大胆に勧めなくてはなりません。わたしたちは、信仰の先達から福音を聴き、受け取り、信仰を手渡されてきました。信仰のつながり、救いの連鎖をわたしたちで止めてはなりません。神の国の完全な現れが、わたしたちの間に明らかになる時まで御国の福音は世界に宣べ伝えられることが必要です。キリストの救いを受け入れ、救いを宣べ伝えるために献身することへと、主が召してくださっています。キリストが再び来てくださる日まで主に喜ばれる歩み続けることへと召してくださっています。

### 集会出席統計(月平均人数)

	2020年	
	1月	2月
主日礼拝	83.5	79.3
聖書と祈り会	10.3	11.3
教会学校*	93.3	89.8

\*保護者、教師を含む

(第1主日開催)	1月5日	2月2日
聖餐夕礼拝	10	8

## 「幼稚園運営委員会」

松江 繁樹

2019年度は、4月の園児数が62名、前年度3月の園児数76名から大幅に減少した状態でスタートした。幼稚園の費用構造は支出全体の8割以上が人件費で、弾力性はないので、園児数の減少、収入の減少はそのまま赤字につながる深刻な状況であった。

ベテル幼稚園は近隣でも評判がよく、これまで園児数の減少はあまりなかったが、保育無償化の波に乗って次々と保育園が誕生したことも原因である。

これらの状況に対応するため、保護者の希望もあり、ベテル幼稚園では、これまでの充実した保育の継続に加え5月から「預かり保育」を立ち上げた。5月の月間延べ利用者108名、6月の延べ利用者93名で、1月の延べ利用者は158名と好調であった。これらの努力の結果、11月には園児数71名まで回復し、この1月には、2020年4月の園児数72名を想定できるところまで回復した。

これらの状況に合わせ、運営委員会では、10月からの保育無償化への対応、保育料の増額、資金繰り、教師の給与体系の検討、運営管理、等が議論された。

### 保育無償化

保育無償化の実施が10月から行なわれ、この対応を迫られた。保育無償化に伴って、事務量が大幅に増えた結果、国、都へ出すべき書類は年間30種類以上となる。これまでこの仕事を一手に引き受けていて下さった方が、2020年3月でお辞めになることになり、その後任探しが議論された。この問題は3月に入りようやく後任の見通しが出てきた。

### 保育料の値上げ

保育の質を保ち、教諭待遇を改善することを目的として、保育無償化に合わせて、2020年度より保育料の値上げを決め、保護者への説明と了承を得た。途中の段階では、値上げすべきか、現状維持か、意見はあったが、ふたを開けてみたら多くの幼稚園が

値上げしており、マスコミなどでは便乗値上げという言葉も聞かれたが、実際は赤字に苦しみ、やむを得ない決定であった。

### 資金繰り

幼稚園運営上、補助金が現在収入の約30%近くを占めており、補助金は毎年1月頃に交付されるため、夏過ぎから秋にかけて資金繰りがマイナスとなり、給与の支払いもできない状況が発生する。このため昨年秋には定期預金を取り崩して支払いに充てた。

### 正規職員及び嘱託職員の給与改定

幼稚園の財政は、2019年度は250万円以上の赤字であるが、例年でも余裕のない状況が続いている。一方で教諭を始めとする職員への給与は一般の職業に比べて低く、私立の学校、公立幼稚園に比べてもかなり低い。安定した幼稚園運営のためには、初任給をはじめとした給与体系の改善が必要である。他幼稚園の給与体系などを参考に、改善可能な範囲を検討し、2月の運営委員会で案を作り、3月の経営委員会で新しい給与を決定した。

### 施設給付型への移行

給与を改善したが、その分2020年度の人件費は大幅に増えており、2020年度の収支もギリギリか、若干赤字である。以上のような状況を改善するためには、財務的に安定する「施設給付型」へ移行することが望ましいことを確認した。この3月から目黒区などへ働きかけ、2021年度から「施設給付型」への移行を目指す。

そのためにはまず会計の透明性が必要で、幼稚園の会計全体を複式簿記で整理しておく必要がある。

幸いこの件は過去3年かけて、担当長老であられた軽部真理子氏が、家計簿方式から、正式の会計方式に立て直して下さったことにより、ようやく間に合った。

## 教会付属幼稚園の機能

教会付属の幼稚園は、正しい幼児教育を推進すると共に、福音伝道の布石を行う機能を持っています。幼稚園の生徒にキリスト教がどこまで理解できるかは判りませんが、少なくとも教会への親しみを持ってもらうことはできると思います。

私自身幼い頃、近くのカソリック教会付属幼稚園に通ったことが縁で、小学校 4 年までその教会へ通っていました。幼いときに蒔かれた種はいつか咲くと信じています。

### <シリーズ 私の聖句、私の讃美歌>

## 「茅ヶ崎時代の宝物」

畠田 京子

今から 37 年くらい前、3 人の娘たちを育てることに必死だった私は、心の余裕もなくやらねばならないことをこなすのに精一杯でした。茅ヶ崎は東海岸の茅ヶ崎同盟教会に通っていましたが、母子室での礼拝説教は頭に入らず、何人もの乳飲み子や幼児をあやしなからの礼拝出席でした。同じ年頃の子どもたちが多くいたので、気の置けない仲間と一緒に母子室の隔離された中で礼拝です。満たされない思いで毎週悶々と過ごしておりました。「母子室ではじっくり説教を聞くことができないわね。」若いお母さんたちの思いは同じでした。み言葉に飢え渴いていた母たちは、月に一度子連れで聖書を学ぶ、ユニケの会を開くことにしました。順番に聖書から感じたことを話し分かち合い、互いに育児の悩みを語り合いました。コンビニの普及していない時代ですから（古い話！我が家には電子レンジもなかった！）お弁当を持ち寄って、幼稚園のお迎えまでの間、心が開放されて楽しくも信仰を励まし合うひとときだったなあ、と思い返しています。いつもは皆さんに迷惑をかけて申し訳ないという思いでいましたから、子どもがぐずっても気兼ねせずにその場においても良いのだという、安心感は何ものにも代えがたいものでした。

ある日の聖書を学ぶユニケの会の聖書箇所が、ルカによる福音書 10 章 38～42 節のマルタとマリアの姉妹の話でした。大喜びでイエス様を家に迎え入れた姉のマルタは心をとりみだして、もてなしの準備に大わらわ。

一方妹のマリアは主の足元に座って、話に聞き入っていたという、あの話です。マルタはカチンときたのでしょうか。妹に手伝うよう言ってくださいとイエス様に頼みました。するところ答えられたのです。「あなたは多くのことに思い悩んでいる。しかし必要なことはただ一つだけです。マリアはその良い方を選んだのだ。」と。

目先のことばかりに目が行き、先手先手に仕事をやっていかないと回らない！あれもしくなくちゃこれもしくなくちゃ・・・栄養のある食事を準備しなくては・・・とマルタのように多くのことに心を配って思いわずらっていたのはこの私でした。この箇所が、最も大切なものは何かを指し示してくれました。最も大切なものは「み言葉」だったことを。こんなあたりまえのことを忘れていたのです。

いつも歌っていた賛美が、口先だけだったということにも気付かされました。

- ♪ 神の国と神の義を まず求めなさい  
そうすれば、 みな与えられる  
ハレル ハレルヤ
- ♪ 空の鳥も野の獣も ひともの草木も  
みな神より養うけ 日に日に育ちゆく  
汝らまず求めよ 神の国とその義とを  
さらばこれらのものは みな加えられるべし  
(青年聖歌 115)

共に育った信仰の仲間たちは、今もかけがえのない神の家族です。

茅ヶ崎時代の忘れられない賛美は、教会学校での年間暗唱聖句です。毎年先生方と討議して、年間暗唱聖句を決め、オリジナル曲をつけていただきました。小さな子どもたちも毎週賛美していますから、自然とみ言葉が体に沁み込んでいきます。

我が家の3人娘たちも、毎晩家庭礼拝をする



るときに、よく熱唱しておりました。

「これから家庭礼

拝をはじめます！」仕切りたがり屋の長女の掛け声で、幼い二人の妹たちは毎晩ニヤニヤしながら、お姉ちゃんが敷いてくれた布団の上に座ります。

字が読める長女が「きょうのせいしょはヨハネによる福音書4章13, 14節です」と朗読し「ではこの年間暗唱聖句をうたいましょう」と教会学校ごっこのようでした。

♪この水を飲むものはだれでも  
またかわくであろう  
しかし私が与える水を飲むものは

いつまでもかわくことがないばかりか  
わたしが与える水は  
その人のうちでいずみとなり  
永遠のいのちにいたる水が  
わきあがるであろう（口語訳）  
「てんのかみちやま くらいよるを  
おまもりください」  
「びょうきのひとを はやくなおして  
ください」  
「ごはんがなくて こまっているひとを  
たすけてください いえすさまのおなま  
えによって、あーめん」

そしてやっと消灯し、アマガエルの大合唱が聞こえる中、夜が更けていくのでありました。

のどかな時でした。今でも家族が集まると茅ヶ崎での生活が話題となり、大爆笑するお約束になっています。ひとつの桃を三等分していたので「大人になったらぜったいに桃を丸ごと一人で食べてやるぞ！」と密かに決意していた子は誰でありましょうか？

今となっては茅ヶ崎時代のみ言葉と賛美が土台となり、聖霊によって導かれて何とか子育てをすることができたのかなど、主への感謝が溢れます。

子育て真っ最中の方々へ京子婆さんからエールを送らせていただきます。

### ☆☆☆ 教会の行事 ☆☆☆

#### ◇今まであったこと

2月26日（水）灰の水曜日

#### ◇これからの予定

4月 5日（日）棕櫚の主日  
4月 5日（日）～4月11日（土）受難週  
4月 9日（木）洗足木曜日  
4月10日（金）受難日  
4月12日（日）復活日（イースター）  
4月19日（日）2020年度定期教会総会  
5月31日（日）聖霊降臨日（ペンテコステ）

### 教会報 196号訂正（なお、ホームページ掲載版は修正されています。）

申し訳ありません、下記の部分に誤りがありましたので訂正いたします。

- 4 ページ右段破線下：2枚の写真と写真の下\*の後の年号、1986年を1968年に。
- 7 ページ右段3行目：1968年3月を1968年6月に。
- 11 ページ◇下の写真の説明：クラリネットをオーボエに。

## 今月のメッセージ

——ホームページページ巻頭言——

ホームページには多くの情報が掲載されています。  
ぜひご覧ください  
<http://kakinokizaka-church.com>

「わたしも言っておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」(新共同訳聖書・マタイによる福音書 第16章18～19節)

昨年秋、教会にパイプオルガンが新設されたことを、前回、この欄で報告しました。設置されたオルガンは、されたオルガンは、教会のオルガニストたち、幼稚園の教師たちによく用いられて、それぞれの賛美に奉仕しています。

オルガンには、パイプに風を送るモーターを回すため電源のスイッチが付いているのですが、このスイッチは鍵を抜き差しして使うようになっていきます。鍵を抜いて管理すればオルガンを使うことができなくする工夫です。けれども、柿ノ木坂教会のオルガンの鍵は付けっぱなしになっていて、誰でもその鍵を回せばスイッチを入れてオルガンが使えるようになっていきます。

他の教会のオルガニストが新しいオルガンの試し弾きしてくれたのですが、鍵が付けっぱなしのことに少し驚いたようでした。おそらく多くのオルガンは、鍵がきちんと管理されているのだろうと想像します。わたしたちの教会のオルガンは楽器を弾く約束事さえ守ってもらえば、オルガニストであろうと、そうでなかろうと、大人であろうと、子供であろうと誰でも弾いてもらって構わない、ということで鍵を付けっぱなしにしています。鍵の態を為しておらず単なるスイッチになってしまっているのですが、誰にでもオルガンに触れ、弾くことが開かれ

ていることを示しているとも言えます。

教会の玄関にも鍵があります。幼稚園も営んでいきますので玄関の施錠、解錠にはセキュリティーのことからも、やや神経を使います。幼稚園が休みのときは、それはそれで、牧師や牧師の家族が長く在宅しないときなどは、鍵をどうするかで悩ましいときもあります。必要とする長老たちや、練習にやって来るオルガニストたちには教会玄関の合い鍵を持ってもらっているとしても、それだけで対応できないときもあるからです。鍵の管理は、難しく、大切で、また大変であると思います。

今回のウィルスの対応で、日曜日の礼拝をどうするかで、それぞれの教会の対応があったことを聞きます。日曜日の礼拝を教会礼拝堂では行わず、それぞれの家庭で守ることにした教会もあると聞きます。日曜日の礼拝という教会で最も大切なことを教会礼拝堂で行わないという真剣な決断があったことと思います。わたしたちの教会は、礼拝をこれまで通りに継続することとしました。日曜日、礼拝にやって来る人たちを拒まず、象徴的な意味において、礼拝堂に鍵をかけないこととしたのです。体調管理、適切な予防処置、出席に無理をしないことなどを呼びかけ、限界はありつつも会堂の感染予防管理に心掛け、礼拝堂での礼拝を継続しています。

大事を取って休まれる教会員も少なくありません。それぞれの判断として尊重されなければなりません。けれども、礼拝堂に鍵をかけてはならないし、祈りをささげ、礼拝をささげたいと願う人が教会礼拝堂に来ることを拒むことはできないと考え、わたしたちも真剣に決断をしました。このような中で、礼拝を献げることが当たり前のことではない、と改めて知らされています (牧師 渡邊 義彦)

## ——編集後記——

- ・ご存知の通り、現今の保育無償化や施設給付型への対応など、多くの課題の中で、いかに教会幼稚園としての意義を守っていくかが問われています。その現状について報告していただきました。
- ・「私の聖句・讃美歌」の思い出話を通して、クリスチャン家庭のあり方を改めて学んだ気がいたしました。
- ・4月を迎えます。主のご受難に想いを込め、来るべき復活の日の喜びを迎えたいと思います。
- ・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。  
(編集委員長 井澤浩一)

## 集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分

聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時

入門講座 日曜日 午前9時30分

教会学校 日曜日 午前9時

(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)

\*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。

聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分

日本基督教団 柿ノ木坂教会

〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂1-31-19

電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)

03-3723-3870 (ベテル幼稚園)

牧師 渡邊 義彦

協力牧師 松下 恭規